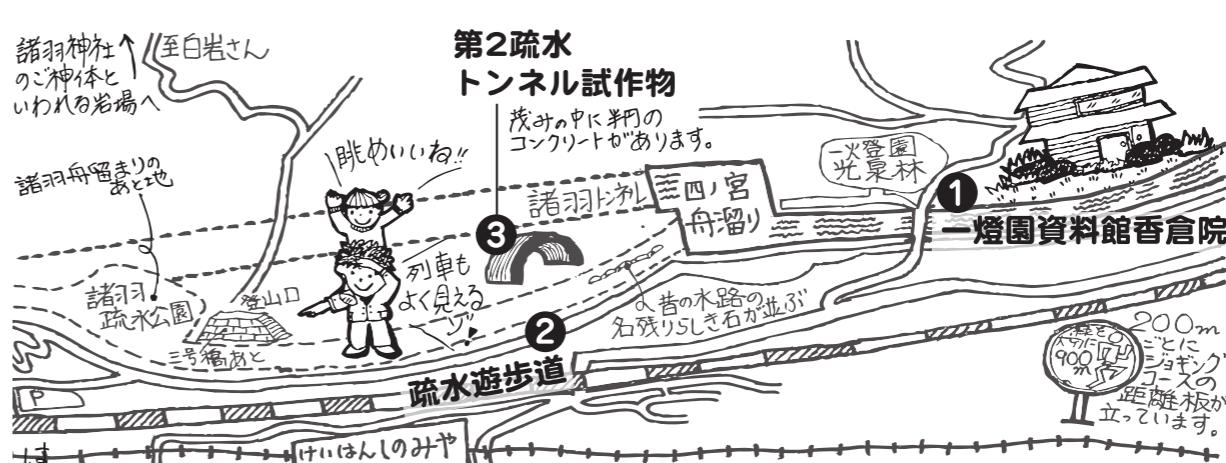
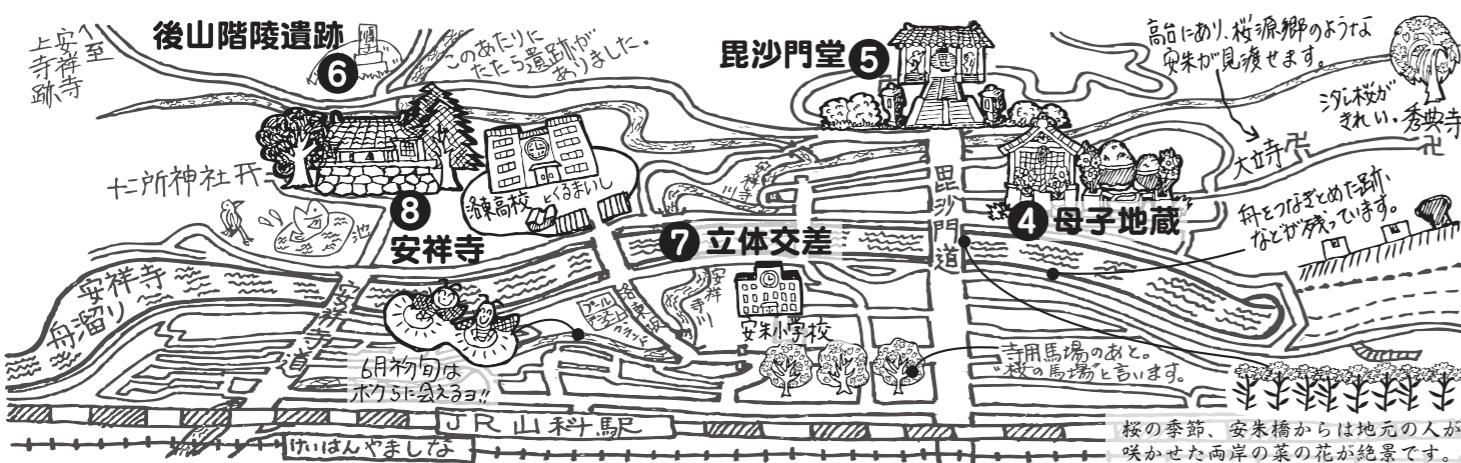


三山科疏水



の南岸には、現在も「仕切り板差込用コンクリート」と「繫留用アングラー」が残つており、疏水水運の貴重な遺産といえるでしょう。



毘沙門堂参道が山科疏水と交差

に第一疏水が完成してから国鉄東海道線の現路線の開通した一九二一（大正一〇）年までの三〇年間は疏水の舟運がたいへん盛んでした。その後、鉄道や道路の発達により、舟を使っての荷物の輸送は減りましたが、舟運自体は昭和二〇年代まで続いていました。

るたために、建設作業員の練習用として造られたものです。

4 四川



「母子地蔵」は、疏水の完成から九年後の一九〇三（明治三六）年、疏水に落ちて水死する子どもが相次いだことに胸を痛めた善兵衛という船頭が、安永の住民の協力

かり足を滑らせて落ちると、小さな子は命を失った」と当時にいて地元の方は話しておられます。二〇〇八（平成二〇）年には地域の方々によりお堂が建て替えされ、安朱地域の子どもたちを見守り続けています。

5
毘沙門堂



院の高い
門跡寺
寺格と落
ち着いた
山寺の風
情が魅力
的な寺院
です。

天台宗の門跡寺院である毘沙門堂は、本尊が毘沙門天であることからこの名で呼ばれており、古くは護法山出雲寺といいます。天台宗京都五ヶ室門跡の一つでもあり本堂などが市指定文化財にもなっています。

一月には「初寅祭」が行われ、一二月一四日に行われる山科義士まつりの出発地ともなっています。寺伝によれば、毘沙門堂の前身となる出雲寺が奈良時代に上京区の出雲路に開かれましたが、平安時代末期からいくたびか焼失、復興を繰り返し、江戸時代に現在の場所に再興されました。

הנִזְקָנָה

山科疏水（琵琶湖疏水）は明治維新による東京遷都により渋滞感の漂っていた京都に活力を呼び戻すため建設が進められ、一八九〇（明治二三）年に完成しました。九九六（平成八）年に国の文化財（史跡）に指定されています。

団法人となり活動しています。
「香倉院」の収蔵物には、西田
安朱・御陵・日ノ岡地域の北側を
流れ、他にあまり例を見ないすば
天香の遺品をはじめとして、ゆか
のいい景観を示しています。

安朱・御陵・日ノ岡地域の北側を流れ、他にあまり例を見ないすばらしい景観を示しています。

「香倉院」は、一燈園の創始者
くと、右手に一燈園資料館「香倉
院」が現れます。



心を持って
無所有奉仕
の生活を行
う団体で
一九二九
(昭和四)
年、山科の
現在地で財

2 疏水遊歩道



山科疏水こと琵琶湖第一疏水は、琵琶湖畔の三井寺下から長等山トンネルをくぐり、山科を通過した後、九条山を経て京都盆地に流れています。疏水流れています。遊歩道が整備され、山科の約4kmにわたる区間は、相当な水量の流れが山すそを巻くように蛇行し、四ノ宮・



③ 第二疏水トンネル試作物



琵琶湖